

青森・JAつがるにしきた×弘前大 学生と協働プロジェクト

若い発想生かし

地域課題解決

【青森・つがるにしきた】JAつがるにしきたは、地域農業の10年後を考えるプロジェクト「未来創造研究所」で、弘前大学の学生とJA職員が協働で地域農業の課題解決に取り組んでいる。「労働力不足対

策」「共販率向上に向けたブランド化」をテーマに葉取らずリンゴの消費拡大策などを検討。2025年以降、消費者アンケートや交流サイト(SNS)立ち上げなどを行う予定だ。

に、AとBの2チームに分かれて課題の分析結果や解決策を発表した。

デジタル活用 労力確保策も

Aチームは、目指す目標として「求められる葉取らずリンゴ」を掲げ、アンケート実施やモデル園地の設置などを提案。Bチームは、組合員とJAの情報共有を図るデジタルサービス「nimaru(ニマル)JA」などを活用して、労働力の呼び込みにつなげる対策を示した。

検討結果を踏まえ、JAの販売促進に学生が同行し、消費者アンケートなどを予定だ。山中組合長は「大学生が現場の課題に対して真摯(しんしん)に向き合ってくれた。提案で終わらず実行することが大切だ」と述べ、今後に期待を寄せる。

成田教授は「ゼミの議論でも、JAでの体験が生きている。JAにとっても、アイデアを得る上で学生が触媒になったのではないか」と話す。

同研究所は23年12月に発足。同大学農学生命科学部の成田拓未教授のゼミで学ぶ学生が参加する。前例にとらわれずに議論を進めるため、柔軟な発想やアイデア、行動力などに期待し、協働を成田教授に打診した。ゼミ生A役職員約40人を前

10人とJA職員が1年かけて、米やリンゴ、トマトの農家などから聞き取り調査や解決策の検討を重ねてきた。

つがる市のJA本店で12月上旬に開かれた研究所会議では、農家や山中満春組合長らJA



未来創造研究所で検討した解決策を発表する弘前大生(青森県つがる市で)

葉取らずリンゴ消費増など検討